

第3回天王寺動物園経営形態検討懇談会 議事要旨

■開催日時：平成28年10月26日（水）16：30～19：00

■開催場所：大阪市天王寺動物園 レクチャールーム

■出席者：

（委員）蒲生委員、佐々木委員、佐渡友委員、高瀬座長、宮下委員（五十音順）

（建設局）高橋天王寺動物公園事務所長、牧動物園長、板谷改革担当課長、犬塚管理担当課長、今西動物園担当課長、ほか3名

（経済戦略局）磯野集客拠点担当部長、ほか3名

【議事要旨】

1 事務局より資料説明と質疑応答

（1）目指すべき組織体制について

資料1をもとに事務局より説明

- ・日本の動物園で最も立ち遅れているのが、動物園で繁殖した動物の野生復帰の取り組みである。（宮下委員）
- ・海外の動物園では、資金を集める部門とそれを保全・教育に使う部門が一体となっているところが多い。また、保全の取り組みへの資金源は自治体の税金ではなく、ファンドレイジングによって賄っている。日本の動物園が保全の取り組みが弱い要因は、人の問題の他にその財源を確保しようとしにくい構造的な欠陥がある。（佐渡友委員）
→目指すべき組織体制にも「保全センター」と記載したが、生息域内保全の重要性は認識している。財源の問題も含めてすぐには難しいが、小さくでも始めて拡大をしていくことも考えなければならない。（事務局）
- ・やらないといけないことを体制化すると資料のようになると思うが、なかなかすべてをやるのは難しいのではないか。差別化を図って、天王寺動物園として強みを出していくところとそうでないところのメリハリをつけるべきである。（佐々木委員）
- ・ボランティアに関して、日本の動物園では教育的なボランティアは多く見られるが、海外の動物園のようにサービス部分への導入を検討してもよいのではと思う。（宮下委員）
- ・日本の動物園はボランティアを自主性に任せているが、海外ではマッチングや育成の機能を職員が担っており、そこを動物園として関知していく必要がある。（佐渡友委員）
- ・今、直営下の課題として、アルバイトが臨機応変に雇用できないなどの課題が挙げられているが、これは組織の問題なのか、それとも予算上の問題なのか、はっきりさせておく必要がある。（高瀬座長）

→収入があがれば物件費は増やすことも可能だが、人を新たに雇えるわけではない。
大阪市全体のルールによる制約が大きい。

(2) 収支シミュレーションについて

資料2をもとに事務局より説明

- ・第2回の懇談会において、公費負担率50%が今後の動物園運営において核心的な要素であって、あるべき収支モデルを作り上げてみる過程が重要だということで、事務局には値上げも考慮した収支シミュレーションを作ってもらった。(高瀬座長)
- ・行催事費や広告宣伝費は、キャッシュベースで必要な財源なので、キャッシュベースの現状に、それらをオンした状態で、公費負担率を抑えていくにはどうするかという資料が必要。(佐渡友委員)
- ・公費負担率を算出する前提が、キャッシュベースと減価償却費や政策減免など目に見えないものを概念的に計上するベースがあるのでわかりにくい部分はあるが、この結果を見比べると、キャッシュベースで50%を賄えていればもう一つのベースでも当然賄えているということなので、キャッシュベースで50%をクリアすることを目指すという理解でいいと思う。(佐渡友委員)
- ・やはり光熱水費の収支に占める割合が高すぎる。これは経営形態の課題以前の問題として取り組まなければならない。(蒲生委員)

(3) 経営形態検討における必要条件とその評価案について

(4) 先行事例等の検証について

資料3・4をもとに事務局より説明

- ・全体として、民間事業者に対して理想を抱きすぎているのではと感じられる。海外でもそうだが営利事業として動物園を運営しているところは数少なく、民間事業者が育ちにくい土壌を有している。(佐渡友委員)
- ・動物園の機能と民間企業を同じ土俵で議論するべきではなく、動物園が担っている重要な機能を優先的に高めていくことが経営形態を考える際には重要である。(佐々木委員)
- ・経営の視点が多く出てきているが、種の保存や動物福祉という観点では忘れてはいけない。(宮下委員)
- ・経営形態が変わっても、組織の中にいる職員が変わらなければ意味がない。職員全員が同じ意識を持って、一丸となることが重要である。直営では、セクショナルリズムの壁があると思うので、経営形態変更によってこれを切り開くことが一番重要ではないかと思う。(蒲生委員)
- ・「専門人材の育成・確保」の市直営がD評価になっているが、実際問題として直営でもうまくやっているところはある。大阪市独自の事情と一般論が混在している。(佐

渡友委員)

- ・経営形態がどんな形になったとしても、天王寺動物園として守り、継承していくべき要素は何かというのは決めておかないといけない。(高瀬座長)
- 絶対に譲れない要素というと、資料1の3ページと101計画で示しているところである。(事務局)
- ・動物園・水族館が世界的に置かれている状況としては、動物愛護の声の高まりなどもあって動物園不要論が大きくなってきており、「種の保存」と「動物福祉」の役割を果たしていくことはお金よりも大事なこととなっている。(事務局)
 - ・一方で、大阪市において「種の保存」「動物福祉」をやっていくのであれば財源を生み出さないといけないので、経営を合理化していくというのは避けて通ることのできない問題である。(事務局)
 - ・さらに、持続可能な運営を行うためにも、サービスの強化を図りお客様が一定の高いレベルで来ていただくことが重要である。(事務局)
 - ・次回は、101計画において示されている「天王寺動物園の果たすべき機能・役割」を立脚点にして、あるべき経営形態について議論を集約させていきたい。(高瀬座長)

2 事務局より今後のスケジュールを説明

3 閉会